

【聖光学院—会津北嶺】選手にエールを送る会津北嶺の応援席
＝25日、いわき市・ヨークいわきスタジアム



会津勢40年ぶりとなる戦いぶりに球場のスタンドや地元が熱く燃えた。いわき市で25日に行われた全国高校野球選手権福島大会の決勝では、会津北嶺が王者聖光学院を相手に一時リードする白熱した試合を展開し、多くの人が駆け付けた客席や球場から遠く離れた会津に勇気を届けた。

北嶺奮闘 地元も熱く

スタンド応援「感動ももらった」

○…創部初の優勝を目指す選手を後押ししようと、会津北嶺の応援席には部員や在校生、保護者、卒業生ら200人以上が駆け付けた。甲子園の切符は逃したが、関係者はノーシードから快進撃を続け、決勝で奮闘した選手をねぎら

った。卒業生の中には、夏の福島大会で初めて4強に進出した2023年の主将原太一さん(19)らの姿もあった。原さんは試合中、応援歌を大きな声で歌い、メガホンを力強くたたいて選手にエールを送り

続けた。原さんはチームの歴史を塗り替えた後輩たちを「感動をももらった。頑張ったね」と声をかけたい」とたたえ「この悔しさをばねに頑張ってほしい」と激励した。野球部保護者会長で五十嵐悠斗主将(3年)の父宏行さん(46)は「良いチームに成長してくれた。『最高の夏をありがとう』と伝えたい」と感謝の言葉を口にした。

高校野球決勝

○…試合後、会津北嶺ナインは午後5時半ごろ、会津若松市の校舎に帰校した。準優勝の盾や賞状、メダルを手にした選手たちが温かい出迎えを受けた。

ナイン帰校 温かい拍手

校舎前には在校生や教職員のほか、校舎近くの住民らも駆け付けた。健闘をたたえる拍手を浴びながら行進した選手たちは笑顔で応えていた。

テレビの画面越しに会津北嶺の選手を応援する市民ら＝25日、会津若松市役所



○…会津若松市役所本庁舎では、大画面でテレビ中継を映し、市民や地元のスポ少、スポーツ団体関係者らが熱い声援を送った。

約60人が観戦し、配布されたメガホンを持ちながら見守った。会津北嶺の選手が活躍する場面では歓声が上がった。試合後は、拍手で選手の健闘をたたえた。

北会津中野球部1年の一条拳輝さんは「(会津北嶺の選手は)憧れの存在で、格好良かった。自分も甲子園を目指せる選手になれるよう頑張りたい」と話した。

若松市役所でも歓声



帰校して健闘をたたえる拍手を受ける会津北嶺ナイン＝25日、会津若松市